

## ■ 五大本能の意味

本能 【本能のタイプ】	本 能 の 意 味
防衛本能 【青龍型】	危険から身を守ろうとする本能ですが、誰かに攻撃された場合、単に防衛するだけでなく、自分からもあえて危険なことに飛び込むような行動に出ない…という、保守の意味もふくまれているのです。したがって、あまり闘いや争いごととは好きではない…と同時に、世の中の安定期・平和な時代には自分がもっている力が十分に発揮出来、自分をのばすことも出来るタイプです。
伝達本能 【朱雀型】	人として得たものすべてを、ひとに伝えたり、後世に残そうとする本能です。これは子供たちに生きるための生活の智慧を教えたり、財産を残してやったりする事のほかに、たとえば自分があげた学問上の業績を書物にして残すなど、個人的なものもふくまれます。また、ひとの物事を伝える本能ですから「表現」「アピール」の本能であるとも言えます。
魅力本能 【とう蛇型】	ひとを自分のほうに引きつけようとする本能です。 たとえば、組織にいる人が他の人より良い仕事をして上司の目にとまろうとしたり、女性がお化粧をしてキレイに見せようとしたり、美しく着飾るなどはこれのあらわれです。
攻撃本能 【白虎型】	生きるために外部へ積極的にアタックしていく本能です。"攻撃は最大の防御なり"という教えがありますが、たとえば、セールスマンが商品を売り込むのも、組織にいる人が、出世に目障りな同僚をおとしめよう画策するのも、この本能のあらわれです。
習得本能 【玄武型】	他から学び、それをもとにして創造力を発揮する本能です。 食事をしたり眠ることなど、とくに訓練や努力をしなくても、生物としての生命を維持するために必要な事をおのずから習い覚えていく本能です。

## ■ 集団としての五大本能

本能 【本能のタイプ】	本 能 の 意 味
防衛本能 【青龍型】	危険から身を守ろうとする本能ですから、これが強い組織や集団(あるいは派閥など)は保守と防衛の強い集団で、あまり闘いや争いごととは好きではない集団です。世の中が安定期・平和な時代には集団の力が十分に発揮出来、組織や集団を発展させることが出来ます。
伝達本能 【朱雀型】	組織や集団(あるいは派閥など)として得たものすべてを、他に伝えたり、持続維持しようとする本能ですから、「表現」「アピール」の本能であるとも言えます。これが強い組織や集団は、なにか事件が起きたようなときには、自分たちの組織や集団の存在を誇示しようとします。
魅力本能 【とう蛇型】	ひとを自分たちのほうに引きつけようとする本能です。集団としてこれが強い集団は、人を引きつける力を充分にもっており、だんだんと大きくなって、長くその力を維持していける集団であることをあらわしています。
攻撃本能 【白虎型】	集団や組織を存続維持していくために外部へ積極的にアタックしていく本能ですから、これが強い集団や組織は、なにごとにも積極的にであり、活力にあふれている集団です。創成期とか激動・動乱の時代には集団の力が十分に発揮出来ます。
習得本能 【玄武型】	他から学び、それをもとにして創造力を発揮する本能です。 この本能のアベレージが高い集団は、知識集団で知的な人が多く集まっており、政策能力(あるいは経営能力・テクニク・策略など)も高いことをあらわしています。

算命術の原典では、集団を「動乱型」と「平和型」にわけた場合の、典型的なエネルギーの配分順序を次のように示しています。この「動乱型」という言葉のなかには、その集団が戦いを好むという意味のほかに、激動の時代に生きぬいていける集団という意味も含まれています。また「平和型」は、あまり戦いを好まない、そして平和な時代には人望を集めるという二つの意味をもっています。

- 動乱型 (1)魅力本能 (2)攻撃本能 (3)習得本能 (4)伝達本能 (5)防衛本能
- 平和型 (1)魅力本能 (2)防衛本能 (3)習得本能 (4)伝達本能 (5)攻撃本能

この二つのタイプを比べてみると、どちらも魅力本能が最初に配分されています。魅力本能は、人をまとめて統率いくうえでは欠かせない本能なのです。いかなる時代でも、集団として成立しそれが長く続いていくためには、この本能が強力でなければなりません。したがってトップにきているのは当然でありましょう。

次に二つのタイプを比べてみると、動乱型は2番目に攻撃本能がきて防衛本能が最下位、平和型はその反対で2番目が防衛本能、最下位が攻撃本能で、あとの本能の順序は同じになっています。